

令和8年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

令和8年4月20日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>めまぐるしく変化し複雑で予測困難な社会の中で、時代が求める「学び」への取り組みを進め変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。豊かでたくましい人間性を育み、キャリア教育を充実させる。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成</p> <p>◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進</p> <p>◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進</p> <p>◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む</p> <p>◎情報や情報技術、ICT機器について深く理解し、自らの学びに取り入れる。また情報技術、ICT機器を活用した校務のDX化(デジタル・トランスフォーメーション)を推進する。</p> <p>◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールミッション、スクールポリシーにより、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用を基盤とし、一人一台端末の効果的な活用をさらに進めるために、各教科が連携して取り組みを推進する。加えて、教科の枠を超えた教材の研究や研修を深化させ、ICT教育のみならず、教育現場全体のDX化(デジタル・トランスフォーメーション)を図り、生徒一人一人の学びの質を向上させる環境を構築する。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的な生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的にわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p> <p>・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の充実と実践のため、地元地域の力を生かして令和7年度は1年次で初のインターンシップ教育(職業体験)を実施した。</p>	<p>◎時代が求める「学び」への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的学びへの高いモチベーションの構築 ・対話的学びへ向けたコミュニケーション能力の向上 ・「深い学び」及び「個別最適な学び」に向け、タブレット端末やハイスペックPC等ICT機器を整備・活用した教育活動を充実させ、教育のDX化(デジタル・トランスフォーメーション)を推進する。 ・多様な学力ニーズに応じた手立てと指導の工夫 ・規律ある学び風土の醸成 <p>◎豊かでたくましい人間性の育み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感やコミュニケーション力を向上し、他者を思いやり良好で発展的な人間関係を構築する力を身につける ・行事等を通して非認知能力を育み、人格形成を図る ・学校生活全般における生徒の主体的参加の推進 ・部活動の積極的参加と体験活動の充実 ・地元地域、保護者とともに、次代の社会を築き、守り、担う人材(生徒)を育てる <p>◎キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・汎用的能力の育成を踏まえたキャリア教育の計画・実践 ・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践 ・地元地域の力を活かしたインターンシップ教育(職業体験)の実施 ・社会課題に取り組む探究活動や地元企業との協働によるプロジェクト学習等を通じたアントレプレナーシップ教育の推進 ・生徒が自らの未来像を描き、社会とのつながりを実感できる取組の充実 			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
国語科	生徒が卒業後、社会で活躍するために必要な国語の力を身につけさせる。特に、昨今急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から自分に必要な正しい情報を取り出したり、それを踏まえて自分の考えの形成に生かしていける力をつけさせる。また、形成した自分の考えを元に、相手との言語による円滑なコミュニケーションがとれる力をつけさせる。	持参物や学習方法、家庭学習等、すべきことをわかりやすく明示する。またそれらを、授業内での確認や小テストを用いて授業者が適切に評価することによって、日々の授業を大切に、当たり前であることを当たり前に行う態度を育成する。				
		生徒の学力実態、進路希望、将来のキャリア形成、社会情勢等を念頭に置いて教材の選定を行い、生徒の興味、関心を喚起する。また、従来の講義形式の授業だけでなく、ファシリテーションやディベート等のグループ学習、自学自習、教え合い、スピーチやプレゼンテーション等の発表形式など、様々な授業形式を目的に応じて適宜取り入れることで、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
地歴・公民科	探究活動を採り入れながらも基礎基本の定着を図る授業を行うとともに、観点別評価をもとに個々の力を伸ばさせる指導を行う。授業内容と現代社会における具体的な事象とを関連づけることによって、リアルな社会とリンクした物事の見方・考え方や、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。また、一人の主権者や未来の有権者として、社会に主体的に参画しようとする公民的資質を育む。	各科目における授業内容を精選し、生徒が主体的に授業に参加し、探究的な活動を通じて、学習内容をより深く理解することができるよう授業を展開する。具体的には、時事問題や、生徒が身近に感じることができる要素とリンクさせ、リアルさを実感することから学習へのモチベーションの向上に繋がるよう授業を行う。学習上課題がみられる生徒に対しては、学習の仕方を具体的に示し計画を立てさせるなど、主体的な学びに繋がられるよう個別に適切な支援を行う。				
		さまざまな資料や視聴覚教材、ロイロノート等のツールを用いて、幸せな人生を送るために求められる社会的な見方・考え方を、地理的、歴史的、公民的な視点を通じてそれぞれ身に付けさせる。現代社会における諸課題を学習し、それを改善または解決するために必要な知見について、探究的な活動を通じて身に付けさせる。また、各科目の特性に応じて、個人またはグループによる発表やディベート等を採り入れ、他者の考え方にふれたり、自らの意見を他者に伝えたりする経験を積ませるとともに、主体的に物事を考える力を醸成する。				
数学科	授業での基礎基本の定着を図りつつ、個に応じた指導を行う。また、ICT機器を用いるなど指導の工夫をする。	1年生では、習熟度別授業を行う。数学が得意な生徒は伸ばし苦手な生徒にも手厚くサポートをする。それぞれの進路実現に向けて授業展開をする。併わせて教科会議で生徒に関する情報共有をして、よりよい教科指導を行う。				
		授業改善の中でICT機器を使う良さと紙を使う良さを考え、場合に応じて使い分けをする。ロイロノートを用いて、各時間の振り返りなどを効果的に行う、授業内容の精選を行うなど、生徒が主体的に授業に参加できるよう、指導の工夫を教科内でも共有していく。				

理科	<p>社会を担う人材として、基礎学力の定着と向上を図り、主体的に考え学ぶ態度や課題解決能力を育成する。</p>	<p>基礎学力の定着・向上を図るために、日々の授業規律の確保や向上に努め、ロイノートなどのアプリやICT機器を効果的に活用することで、生徒の興味・関心を喚起して積極的に学習に取り組ませる。また、生徒の日々の学習状況について小テストやノートのチェックなどより細かく確認し、情報共有を行って課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。</p> <p>実験・実習を通して、生徒が実物に触れたり、体験的に学んだりする機会を確保するなど、生徒の主体性を引き出す工夫を行う。また、授業内で生徒同士が積極的に対話や議論する場面を設定して、生徒のコミュニケーション能力や論理的思考力のさらなる向上を目指すとともに、課題解決能力の育成に繋げる。</p> <p>同時に、生徒のどのような能力を伸ばし、いかに評価するかについて、研究を深め教員間で交流を進める。</p>				
保健体育科	<p>・心身のつながりを理解し、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を目指す。また、自らの健康や環境を適切に管理し、改善していく能力の育成を目指す。</p> <p>・主体的・合理的・対話的かつ計画的で深い学びを目指した授業を行う。</p>	<p>・運動やスポーツに対して、「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方があることを理解させ、多くの運動・スポーツの中から自分に適した種目を選択し、生涯を通して主体的に運動・スポーツに親しむ基盤を育てる。</p> <p>・ICT機器を活用し、自己や他者の運動動作を客観的に確認することにより、自己または他者の課題を見つけ、改善・修正ができる一助となるよう育成する。</p> <p>・グループ活動を通して、コミュニケーションを図り、自己の役割を責任をもってやり通す力を身につけさせる。また、授業を通して、協働することの大切さを学ばせる。</p> <p>・ヘルスプロモーションの考え方を踏まえて、個人の適切な意思決定や行動選択が生涯の健康づくりに関わることを意識させ、生徒が実生活に生かせるよう育成する。</p> <p>・実習を通じた実践的な学びを行い、実生活に生かせる知識及び技能を身に付ける。</p> <p>・課題学習を通して、調査・研究・発表をさせる。発表の際には、生徒のコミュニケーション能力やICT機器を活用したプレゼンテーション能力を身につけられるように指導する。</p>				
芸術科	<p>芸術各科目の幅広い活動を通して、各科目の見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成できるよう、指導方法の工夫改善を行う。</p>	<p>感受する豊かな心と表現する力を育て、生徒一人一人が内発的動機に基づいて主体的に学び、教科目標を達成できるように、生徒の実態に応じた教材開発と研究及び指導の工夫を行う。教科会議で情報共有を行い、生徒の状況に応じ指導方法の改善、教科連携に生かす。</p> <p>表現及び鑑賞の活動を通して、学習内容の基礎基本の定着と活用を図るとともに、本物に触れ感じ取らせる場面とICT機器を活用する場面について吟味し、生徒がより効果的に深く学べるよう授業研究を進める。</p>				
外国語科 英語	<p>あらゆる生徒に対して、基礎・基本を大切にしながら4技能・5領域をバランスよく伸ばすことを目指し、「覚える」よりも「考える」「理解する」ことを意識して教材・授業法・評価方法を改善する。また、パフォーマンス課題などの、アウトプットを中心とした活動を取り入れ、英語を「使う」場面を増やす。</p>	<p>1年生については、学び直し教材を通して基礎・基本を身につけさせる。英語を苦手とする生徒に対しては、つまずきの原因を早めに明らかにし、適切な働きかけを行いながら単位認定を目指す。また、AIに頼った英訳や日本語訳をするのではなく、辞書等を適切に活用する指導を行い、考える力を伸ばす。そして、生徒の関心や意欲を高める様々な工夫をしながら、個々の進路実現につながる授業や補習を実施する。</p> <p>4技能をバランスよく伸ばすことを目指すとともに、英語を使って思考力や判断力を育み、主体的な学びに繋がるよう、パフォーマンス(音読・スピーチ・自由英作文・情報の読み取り等)を取り入れた授業や評価に取り組む。生徒が英語を使うモチベーションを高めるために、単元のまとめや活動・行事のまとめとしてパフォーマンス課題を設定する。</p>				
家庭科	<p>実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。</p> <p>授業規律を確保し、授業や学びの環境づくりを大切にす。日々の授業を主体的に学ぶ姿勢を育む。</p>	<p>・生徒が授業で学んだことを自身の生活に反映することができるような学習課題を策定する。</p> <p>・グループ学習や発表会、講演会において、さまざまな人の意見を聴き、多様な価値観にふれ、自分らしい生き方について考えさせる。</p> <p>・調理・被服製作・保育などの実習において、教材や指導方法を工夫し、知識・技能の定着と向上を目指す。</p> <p>・保育技術検定3級合格率100%を目指す。</p> <p>・授業プリントやレポートに確実に取り組みせ、提出を徹底させる。</p> <p>・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ等の指導を徹底し、落ち着いた学習環境づくりに努める。</p> <p>・実習時の服装・身だしなみ、タブレットのルール、衛生安全面についての授業規律について確認させ、周知徹底する。</p> <p>・生徒自身が考えて学習に取り組める内容のワークシートを作成するとともに、意欲的な学習姿勢を持続させられるよう指導方法を工夫する。</p>				
情報科	<p>授業規律を大切にし、生徒が落ち着いた学べる学習環境を整えるとともに、実践的・体験的な学習活動を通して「深い学び」を実現する。発表や相互評価を取り入れながら、生徒同士が互いに高め合い、情報社会の中で主体的に行動できる力や生き抜く力を育てる。</p>	<p>授業の開始・終了時の挨拶や、身だしなみ、指示を聞く姿勢、自習への取り組み方など、基本的な学習態度を丁寧に指導する。生徒自身が「落ち着いた学べることの大切さ」を自覚し、主体的に良好な学習環境を作っていけるよう指導する。</p> <p>学んだ技術を活用できる作品制作と発表、相互評価と改善の機会を設ける。習得したスキルを活かし検定試験に合格させたり、コンテストに挑戦したりする。</p>				

評価の基準 A:十分達成できている、(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者 評価委員会 による評価	
次年度に向 けた改善の 方向性	